

新田一族ゆかりの地を探訪する



新田莊紀行

NITTA NO SHO

太平記のヒーロー、新田義貞。

そのころ、日本の中世史を大きく突き動かしたのは

新田一族だったと言っても過言ではない。

その足跡を今に伝える新田莊遺跡が国指定史跡となって、

彼らの夢が、いま、私たちの前に蘇ってきた。



国指定史跡新田莊遺跡

円福寺境内

十二所神社境内

総持寺境内

長楽寺境内

東照宮境内

明王院境内

生品神社境内

反町館跡

江田館跡

重殿水源

矢太神水源

群馬県

太田市ほか3町観光連絡協議会
太田市・尾島町・新田町・藪塚本町

[観光ガイド]

新田莊にたたずむと 太平記の風につつまれた

北には雄大な赤城山の姿、

南には滔々^{とうとう}と流れる利根川。

その風景は太平記の昔から変わることがない。

いまもなお、田園風景が広がる新田莊。

ここが、新田一族の故郷である。

新田義重が拓き、

そして八代目の義貞はここから旅立って

怒濤の進撃を始めた。

六百年以上の歳月を越えて

義貞の、そして一族の夢が、

今、ここによみがえる。

莊園では全国二例目、 新田莊遺跡が国指定史跡となりました。

日本の中世史を代表する新田氏の莊園「新田莊」ゆかりの寺社や館跡が多数存在することて有名な、太田市・尾島町・新田町・藪塚本町を中心とする群馬県東毛地域。このエリアに点在する十一ヶ所の遺跡が「新田莊遺跡」として国指定史跡となりました。莊園遺跡としては大阪府泉佐野市日根莊遺跡に次いで全国で二例目、さらに複数の自治体にまたがる複合遺跡の国指定史跡は全国でも初ということで、日本史的にみてもその重要性が伺い知れます。

東西六キロメートル、南北七キロメートルの広範囲に点在し、総面積一二ヘクタールに及ぶ「新田莊遺跡」。円福寺境内、十二所神社境内(以上太田市)、総持寺境内、長楽寺境内、東照宮境内、明王院境内(以上尾島町)、生品神社境内、反町館跡、江田館跡、重殿水源、矢太神水源(以上新田町)の十一ヶ所から構成されています。これらの遺跡の持つ表情は、寺社境内、館跡、湧水地など多彩。新田氏の数々の足跡から漂ってくる中世の香りに浸ってみませんか。



新田一族年代記

中世を駆け抜けた 新田一族の光と影を振り返る

一〇メモ 義貞の誕生地はどこ？
太田市由良町の台源氏館、新田町反町の反町館、核名町里見の三説があるが、確定はされていない。



一一〇六 新田義重の祖父源義家死す。

一一〇八 浅間山噴火、田畑壊滅的な被害を受ける。

一一一〇 源義国が京都で左大臣藤原実能とトラブルを起こしたため勅勘により足利の別業に引退させられた。義重は京都と現地を往復しながら下級官僚の仕事と新田地方の開発に従事していたらしい。

一一五四 鳥羽法皇の御願寺「金剛心院」建立の頃には、義重を開墾地主とする「新田荘」が成立したらしい。地域は新田郡西部の早川・石田川流域の下流部で、後に「空閑の郷々」と呼ばれた十九郷の範囲であろう。

一一五七 義重、開発私領を花山院藤原忠雅家へ寄進し、下司職に補任される。

一一七〇 この頃、新田荘は旧新田郡全域（現在の太田市西部を含む）に拡大する。

一一八〇 義重、鎌倉に参り、源頼朝陣に加わる。

一一九三 頼朝、義重の新田館に遊覧する。

一二〇二 義重死す。義重の子どもに、山名義範・里見義俊・新田義兼・徳川・世良田・義季・額・龜戸経義があり、その子孫は新田・太田地方の郷村に土着してそれぞれの地名を名字として発展していった。

一二二二 承久の乱。この年、徳川義季、世良田長楽寺を建立。

一二四一 新田政義、四人を逐電させ、過怠料を取られる。

一二四四 新田政義、大番役中京都にて許可を得ずして出家し、所領を没収される。

一二七二 世良田頼氏、幕府内紛に巻き込まれ佐渡に流される。

一三〇〇 この頃、義貞生まれる。

一三三三 5・8 義貞、生品神社で旗挙げ。



新田氏系図

義家
(源)

義親
為義
義朝
頼朝
頼家

義重
(新田)

義康
(足利)

義兼
義氏
泰氏
頼氏
家時
貞氏
直義
尊氏

義清
義実
義季
(仁木)
実国

義兼
義季
(徳川)
頼有
頼氏
(巻良田)

義範
(山名)

義俊
(里見)

義房
政義
政氏
基氏
朝氏
義貞
義助
(脇屋)
義宗
義興
義頭

義朝
頼朝
実朝



義貞の弟義助病死。

四

7・2 義貞、藤島莊灯明寺畷に戦死。

義貞の弟義助病死。

7

義頭

義興公

義宗

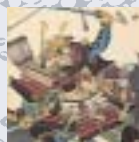
1000



国指定史跡新田莊遺跡

時の流れを越えて、今、
語りかけてくる新田一族の夢の跡

一口メモ 義貞の居館はどこ？
反町館、安養寺館、明王院境内、新田館、総持寺境内、
台源氏館など義貞の館と伝えられるところが四ヶ所ある
が、決定的な証拠はない。いずれにしても鎌倉めに旅立
つて以降、再び故郷の地に居ることはなかった。



1



2



5



3



1 円福寺境内 MAP[C-3]

新田氏四代政義が開基したと伝えられる円福寺。境内には新田氏累代の墓と伝えられる凝灰岩でできた二十基ほどがたなる石層塔・五輪塔群がほぼ完全な形で残存しています。そのうち南から二番目の五輪塔地輪部には彫りの深い薬研彫で「沙弥道義七十二逝去元亨四年（一二三四）甲子八月十一日巳時」の銘文があり、「円」の梵字が見られます。沙弥道義は義貞の祖父基氏の法名と言われています。

2 十二所神社境内 MAP[C-3]

円福寺本堂の西側、茶臼山古墳後円部墳頂近くにある十二所神社。本殿内には三十七センチ弱の木彫り一木造りの十六体の神像が安置されており、うち五体の神像に正元元年（一二五七）の銘があります。創建された時代は不明ですが、付近に散在した十二の末社を本寺の円福寺に寄せ一社とした際、各寺の本尊を一ヶ所に合祀して十二所神社と称したという伝承もありです。

3 総持寺境内 MAP[D-1]

総持寺は、新田館跡の一角に建てられた寺で、別名「館の坊」とも呼ばれています。中世の二条の堀跡と掘立柱建物、井戸跡などが検出され、居住者は、その規模から新田一族の総領家クラスであることは間違いないと見られます。新田義重の居館説、義重の孫で本宗家新田政義の失脚後一時新田氏を代表した世良田頼氏居館説、義貞居館説などの諸説があります。また、江戸時代には真言宗の学問所として三十六ヶ所もの末寺等を有していました。

4 長楽寺境内 MAP[D-1]

新田義重の子徳川（世良田）義季を開基とし、日本臨済宗の相栄西の高弟釈円房栄朝を開山として承久三年（一二二二）に創建された東日本最初の禅寺。創建当時は、常時五百人を超える学僧が止宿して研学修業に励んだと言われ、その中には入宋した僧も多く、日本仏教史上重要な地歩を占めました。徳川家康が関東入国後、祖先の寺として重視し、天海僧正を住職に任じ天台宗となりました。

5 東照宮境内 MAP[D-1]

長楽寺住職天海僧正の発願により、日光から長楽寺境内に勧請された



神社が東照宮です。三代將軍家光が日光東照宮を改築した際、徳川氏祖先の地・世良田に旧奥社の拝殿と宝塔が移築されました。桃山時代の建築様式をよく遺す拝殿、果籠もりの鷹が有名な本殿をはじめ、近世初期の文化財が豊富。境内には、長楽寺に關わる中世遺構として法照禪師月船深海塔所並びに普光庵跡や真言院井戸などがあります。

6 明王院境内 MAPID-21

かつての安養寺館跡であり、安養寺殿と呼ばれた新田義貞の居館跡とも推定される明王院。現在、不動堂には二体の不動明王が納められ、その一つ、約五・五センチメートルの白金製のものは、義貞鎌倉攻めの際、山伏に化身して越後方面の新田一族に一夜にして触れまわったという「新田館不動」として知られています。また、境内には江戸時代建立の「ミッド」型の極めて珍しい「干体不動尊」があります。

7 生品神社境内 MAPB-21

元弘三年（一一三三）五月八日、新田義貞が挙兵した地と伝えられている生品神社。弟脇屋義助をはじめ集結した新田一族はおよそ百五十騎。正面にある大鳥居の左手には拳兵の際に陣をとったとされる床几塚。神社境内の手前には旗竿塚、社殿前には軍旗を挙げたといわれる朽ち折れた櫓の「神木」が保存されています。毎年五月八日には氏子たちにより鎧矢祭が行われ、勇壮な一族の姿が再現されます。

8 反町館跡 MAPIC-21

現在も堀に水をたたえ、かつての館の面影を残す反町館跡は、新田荘における中世の代表的な平城。義貞が成人後、居住したとの説があり、また市野井氏あるいは大館氏の館跡ともいわれています。現在では、照明寺の境内となり、反町薬師として毎年一月四日には大勢の人出で賑わいます。本堂裏には、義貞の逸話を伝える「鳴かすの池」と室町時代の造園とされる日本庭園があります。

9 江田館跡 MAPIC-11

義貞とともに拳兵、鎌倉では極楽寺坂口攻めの大將として活躍した江田行義の館と伝えられる江田館跡。東西約八十メートル、南北約百メートルの堀と土塁が四方を囲み、東西両側の中央部に折角（屈曲）を持っています。行義は、新田義重の子義季の子孫で、鎌倉攻めの後、備後国に逃れ姓を「守下」に改称。その後、十代後の子孫大善の時代（文禄年間）に先祖の地に移り住んだと伝えられています。

10 重殿水源 MAPB-21

現在、南北三十メートル、東西十メートルの池となっており、周囲は石垣に固められて往時の面影はありません。元亨二年（一一三二）、大館宗氏と岩松政経が「井郷沼水」から流れる用水を巡って争ったことが史料にあり、この「井郷沼水」が重殿水源と考えられます。荘園経営にとって「湧水」が重要な存在だったことがうかがわれます。

11 矢太神水源 MAPB-21

今も湧水点で自噴現象が見られ、南には沼が広がる矢太神水源。石田川の源流であり、新田荘の開発の礎となった湧水。周辺には四千年前の縄文時代の遺跡があり、また雨の少ないとき、御興を沼に入れて「雨乞い」する風習が今も残るなど、深く古い「水」との関わりを表しています。また、水源には二ホンカワモスクなどの珍しい植物が自生しており、貴重な自然を残す数少ない場所。

新田莊の温泉

「義貞の隠し湯」伝説をしのび
やぶ塚温泉郷でくつろぐ

「ロメモ 義貞と桶村ヶ崎の奇襲」
義貞の戦歴の中でも最も有名な桶村ヶ崎の戦い。兵を方に分け
ての鎌倉攻め、義貞は中軍を率いて化粧坂に向かう。義貞は引き
潮を利用して桶村ヶ崎の遠く湯をわたり、北条軍の不意をついた。
義貞が自らの宝刀を投げ入れて引き潮を導いたと言われている。



やぶ塚温泉郷全景

天智天皇の時代に行基上人により発見されたという
古い歴史が、こじんまりとした温泉街になんともいわ
れぬ深みを感じさせる「やぶ塚温泉郷」。義貞が鎌倉
攻めの折り、傷ついた兵をここで療養させたことから
「新田義貞の隠し湯」とも言われています。ゆったり
とした丘陵の中、周囲にはまだ豊かな自然が残り、そ
の空気が醸し出すのは、数々の歴史や伝説の面影。
千年以上も絶えることのない豊富な湯量に加え、無
色透明のさらつとした重曹泉は肌をすべすべにし、ま
た肝臓の働きを活発にすることから肝臓の湯とも言わ
れ、女性にも男性にも嬉しい効能を持つのが魅力的。
温泉街には、温泉神社や「木枯紋次郎」で有名な三
日月村、スネークセンターなど数多くの史跡や名所が
点在。新田莊を探訪した際には、ぜひ立ち寄りたい温
泉です。



新田荘のお土産

豊かな自然と郷土の心
新田荘の香りを感じてください



焼きまんじゅう

ふっくらした歯ごたえに、何とも言えない香ばしさ、上州名物「焼きまんじゅう」。新田荘周辺にも数多くのお店があります。

日本酒・ビール

新田荘に数多く存在する湧水。まさに日本酒やビールの醸造にぴったり。地酒や地ビールをお土産にぜひ。

紅小玉スイカ

数塚本町名産の紅小玉スイカは新鮮な香りと甘さが絶品。その味は日本一と評価されています。

尾島・新田地区の特別栽培農産物

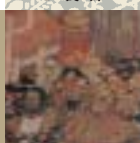
キャッチフレーズは「フレッシュ＆グリーン」野菜の生産。キュウリ、トマトなどで実施している減科学肥料栽培をはじめ、群馬県下でもいち早く環境保全型農業に取り組んできました。環境へのやさしさと昔からの伝統的な技術を融合、安全な野菜を提供しています。

やまと芋

日本一の生産を誇るやまと芋は、きめの細かさ、粘りの強さが自慢。利根川沿岸の肥沃な土壌のたまものです。

一口大 義貞と句当内侍

建武三年（一二三六）、後醍醐天皇から「天下第二」と言われた女侍、句当内侍を賜った義貞。徳門にかけられた義貞の首を密かに持ち帰って、比丘尼となり菩提を弔つたと伝えられる句当内侍の墓「花見塚」が尾島にある。





大光院

徳川家康が先祖とする新田義重の菩提を弔うために建立したお寺。浄土宗関東十八壇林の一つ。「子育て吞龍様」として名高く、たくさんの参詣人で賑わっています。

天神山古墳

全長210メートル、東日本最大の前方後円墳。二重に巡らされた堀を含めると355メートルにも及び、古代東国を支配した上毛野氏の力の大きさが偲ばれます。国指定史跡。



満徳寺

鎌倉の東慶寺と並び日本に二つしかない縁切寺。徳川家康の孫娘千姫にかかわる由緒により、縁切寺の特権を持つようになりました。明治以後、廃寺になったが、本堂が復元され、資料館が隣接しています。

東毛歴史資料館

古代からの東毛地域の歴史・文化に触れることができる、質量ともに県下随一の東毛歴史資料館。新田氏・徳川氏らにちなむ資料なども多数展示しています。



二ツ山古墳

6世紀末から7世紀初頭の築造と推定される2基の前方後円墳。そのうち一号墳は全長74メートル、石室内は盗掘されたものの、太刀、鈴、土器などの出土品は東京国立博物館に保存されています。石室は見学可能。

矢止めの松

義貞が倒幕の旗揚げをする際、吉凶を占って放ったとされる矢がささったという伝承をもつ「矢止めの松」。同所には昭和13年に建てられた「新田義貞公矢止之松之碑」の石碑があります。



スネークセンター

ニシキヘビやコブラ、ガラガラヘビなど世界中から集めた300種・10万匹の蛇を見ることできる。研究センター、資料館、料理店なども併設されています。



三日月村

木枯紋次郎で有名な笹沢左保原作の小説の舞台を再現したという三日月村。江戸時代後期の街道、宿場、紋次郎生家、居酒屋、商家、名主屋敷、茶屋、農村風景などを忠実に再現したもの。江戸時代にタイムスリップすることができます。



1月

上旬 新春上州太田七福神めぐり (太田市)

4月

第2日曜日 東照宮神幸祭 (尾島町東照宮)
28日～ 関東山野草展 (太田市大光院、～5月5日)
29日 バイブ塚たばこ供養祭 (藪塚本町)

5月

8日生品神社鎗矢祭 (新田町生品神社)
最終土曜日～ 太田市民さつき祭 (太田市大光院、10日間)

7月

下旬 世良田祇園 (尾島町八坂神社)

8月

中旬 やぶ塚祭り (藪塚本町)
14日・15日 尾島ねぶたまつり (尾島町)
第2土曜日 新田まつり (新田町中央公共地区)
第4土曜日 太田市花火大会 (渡良瀬川河川敷)



9月

中旬～ につた花トピア
(新田町、～10月第3日曜日)

10月

中旬 かかし祭り (藪塚本町)
中旬 白蛇観音祭 (藪塚本町)
25日～ 関東菊花大会
(太田市大光院、～11月25日)



歳時記



交通のご案内

鉄道利用

東武伊勢崎線 / 浅草駅より特急電車で75分

JR高崎線 / 熊谷駅よりバスで約50分

車利用

関越自動車道 / 東松山ICより約50分

東北自動車道 / 館林ICより約40分

北関東自動車道 / 伊勢崎ICより約20分

